

日本の高校生の教師サポート期待と 関連する概念の文献的検討

井村 亘^{*1,2} 難波 知子^{*3}

要 約

本研究は、現在までに明らかとなっている日本の高校生の教師に対するサポート期待と関連する概念を抽出し、整理することを目的として文献的検討を実施した。文献検索エンジンは、CiNii Articles, Web版医学中央雑誌を用いた。採択された文献から、高校生の教師に対するサポート期待と関連する概念を抽出した。その結果、調査研究6文献、介入研究1文献の計7文献が採択され、それらの文献から16件の教師サポート期待と関連する概念が抽出された。本研究結果を踏まえて、今後、教師に対するサポート期待に関する研究を進めることにより、高校生の心理社会的な問題の解決に向けて教師が配慮すべき事項が明確になると考える。

1. 緒言

思春期の時期は、生涯で最もストレスの多い時期であり¹⁾、自尊感情の低下²⁾、精神的不健康³⁾、問題行動⁴⁾などが顕著となる時期である。そのような問題が生じやすい思春期の中心となる時期にある高校生に対する援助の必要性は高い。

高校生の援助者として位置づけられている者に教師が存在する。教師は、知識・技術の教授のみならず、援助者としての職務も担っており⁵⁾、高校生の心理社会的問題を考えた際に教師の役割は小さくない。しかし、現在、日本の一般的な高校生が心理的な援助者と認識している者は、友人や家族であり、教師を援助者として認識している者は少ない^{6,7)}。このことは、教師による援助を高校生は、有効に活用することができていないことを示している。

さて、教師を含めて他の人からの手段的・表出的な機能をもった援助をソーシャルサポートと呼ぶ⁸⁾。ソーシャルサポートは、サポートの利用可能性の認知である期待されたサポートと実際に受けたサポートである実行されたサポートの2つの側面がある⁹⁾。期待されたサポートは、実行されたサポートと比べて安定して心理的な好影響を与えることが明らかとなっている¹⁰⁾。そのため、高校生の心理社

会的な問題に対する支援を考えるのであれば、実行されたサポートと比べ期待されたサポート（サポート期待）についての検討が重要であろう。

現在、海外においては、思春期の者の教師、親、友人などに対するサポート期待と幸福感、うつ病との関連についての文献的検討が実施されている^{11,12)}。しかし、これらの研究は、サポート期待と幸福感、うつ病という限定された概念との関連を検討しているものであり、高校生の教師に対するサポート期待がどのような概念と関連するのかを広く検討しているものではない。また、ソーシャルサポートは、文化によって影響をうける¹³⁾ことを鑑みれば、日本の高校生を対象として教師に対するサポート期待がどのような概念と関連するのかの文献的検討を実施することが必要であろう。このことによって日本の高校生の教師に対するサポート期待に関する研究を概観することができ、今後、教師が高校生の心理社会的な問題の解決に向けて検討すべき課題を明確にすることができると考えられる。

そこで本研究は、現在までに明らかとなっている一般的な日本の高校生の教師に対するサポート期待と関連する概念を抽出し、整理することを目的として文献的検討を実施した。

*1 川崎医療福祉大学 医療技術学研究科 健康科学専攻 博士後期課程

*2 玉野総合医療専門学校 作業療法学科

*3 川崎医療福祉大学 医療技術学部 健康体育学科

(連絡先) 井村 亘 〒706-0002 岡山県玉野市築港1-1-20 玉野総合医療専門学校

E-mail: 10.26imu@gmail.com

2. 方法

2.1 本研究における用語の定義

本研究における高校生とは、「障害児や不登校状態など個別の支援を必要とする生徒を含めない一般的な高校生」とした。また、教師サポート期待とは、稲葉⁸⁾らのソーシャルサポートの定義をもとに「高校生における教師からの手段的・表出的な機能をもったサポートの利用可能性の認知」とした。加えて、本研究では教師サポート期待と関連する概念（以下：関連概念）を広範囲に抽出する目的から関連を因果関係、相関関係を含んだ意味とした。そのため、本研究における関連概念とは、「教師サポート期待に影響を与える概念、または教師サポート期待に影響を受ける概念、もしくは教師サポート期待と相互に影響を与える概念」とした。

2.2 検索方法および分析対象文献の採択方法

2.2.1 検索方法

本研究の目的を達成するためには、日本の高校生を対象とした文献を検索する必要がある。そのため、文献検索エンジンは、和文献の全分野を検索対象としている CiNii Articles（2022年1月12日検索）と日本国内最大の医学系の和文献を検索対象としている Web 版医学中央雑誌（2022年1月15日検索）を用いた。なお、CiNii Articles は1992年、Web 版医学中央雑誌は1983年からの文献の検索が可能である。

検索語および演算子は、「(ソーシャルサポート OR サポート OR 社会的支援) AND (高校生 OR 高校 OR 思春期 OR 青年期) AND (教師 OR 教員)」とし、Web 版医学中央雑誌においては、さらに絞り込み条件として原著論文を選択した。広範囲に文献を検索する目的から検索期間は設けなかった。

2.2.2 分析対象文献の採択方法

採択基準を満たした文献を分析対象文献として採択した。採択基準を満たした文献とは、表1に示した包含基準を満たした上で、除外基準に抵触していない文献とした。除外基準を「質的研究、症例報告、会議録、特集、文献研究である」とした理由は、これらの文献種別は、個を対象とした研究であることや、関連概念と教師サポートの関連性が明確でない

ため除外した。

分析対象文献の採択の手順を以下に記す。まず、2つの文献検索エンジン（CiNii Articles、Web 版医学中央雑誌）にて選出された文献から重複している文献を除外した。その後、一次スクリーニングを実施した。一次スクリーニングでは、文献の表題および抄録の精読を行い、明らかに採択基準を満たしていない文献を除外した。次に、二次スクリーニングを実施した。二次スクリーニングは、文献に記載されている研究方法と結果を精読し、採択基準を満たしていない文献を除外した。二次スクリーニングを通過した文献を分析対象文献として採択した。これらの文献の採択の判定は、2名の研究者により協議しつつ行った。

2.2.3 関連概念の抽出方法および、関連概念と教師サポート期待との関連の正負の判断基準

まず分析対象文献の全文を精読し、発行年、著者、タイトル、方法、対象・人数、教師サポート期待に関連する結果を整理した。その後、それぞれの文献における関連概念を表2の基準をもとに抽出した。なお、教師サポート期待の一部の下位概念（情緒的サポート・道具的サポート等）のみと関連が認められる概念も関連概念として抽出した。

抽出された関連概念と教師サポート期待との関連の正負の判断については、以下の基準にもとづいて実施した。相関分析、パス解析を用いて関連概念と教師サポート期待の関連を検討している文献に対しては、結果に記載されている相関係数、パス係数が正の値を示している時には「正の関連」とし、負の値を示している時には「負の関連」とした。また、差の検定を用いている文献に対しては、関連概念の教師サポート期待が高い時には「正の関連」とし、低い時には「負の関連」とした。加えて介入研究に対しては、介入前後でサポート期待が高くなった時には「正の関連」、低くなった時には「負の関連」とした。なお、名義尺度である性別に関しては、1 = 男性、2 = 女性として教師サポート期待と関連概念の関連の正負を判断した。

表1 採択基準

【包含基準】	【除外基準】
1) 研究対象が障害児や不登校状態など個別の支援を必要とする生徒を含めない一般的な日本の高校生である	1) 質的研究、症例報告、会議録、特集、文献研究である
2) サポート提供者が教師である	
3) サポート種が期待されたサポート(サポート期待)である	

* 採択基準を満たした文献: 包含基準を満たし、除外基準に抵触していない文献

表2 関連概念の抽出基準

【分析的観察研究】
・教師サポート期待と有意な関連が認められた概念
・教師サポート期待に有意な差が認められた概念
【介入研究】
・介入前後で教師サポート期待に有意な差が認められた介入方法 *介入方法が教師サポート期待に影響を与えたため介入方法を関連概念とした

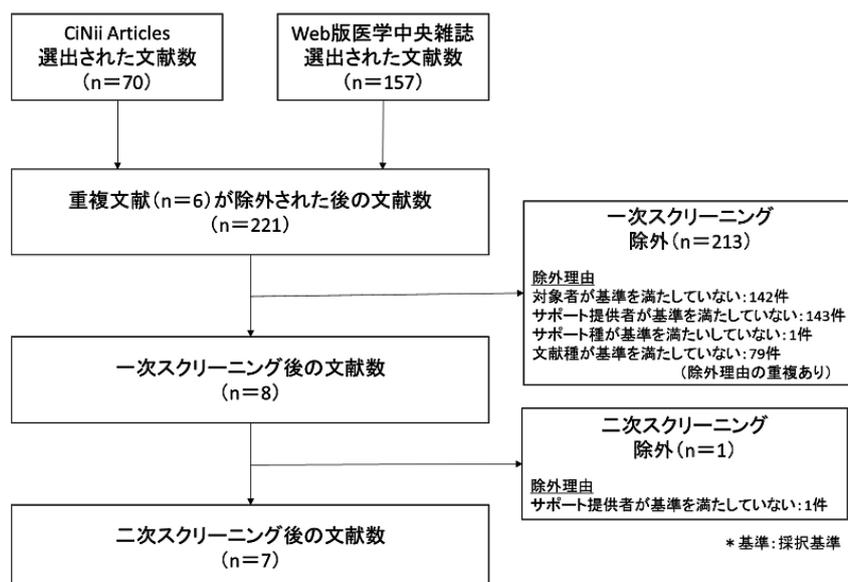


図1 検索結果および分析対象文献の抽出

これらの分析は結果の信頼性を担保するために、2名の研究者間で協議確認しつつ行った。

3. 結果

3.1 検索結果および分析対象文献の採択結果

CiNii Articles で選出された文献は70件、Web版医学中央雑誌で選出された文献は157件であった。

2つ文献検索エンジンにて選出された文献で重複している文献は6件であり、221件が一次スクリーニングの対象となった。一次スクリーニングにて採択基準を満たしていない文献213件を除外し、採択された文献は8件であった。その8件について二次スクリーニングを実施し、採択基準を満たしていない文献1件を除外し、最終的に採択基準を満たした分析対象文献は7件¹⁴⁻²⁰であった(図1)。

3.2 分析対象文献の概要と関連概念の抽出結果(表3)

分析対象文献の発行年は、古い順に、2003年¹⁴、2011年¹⁵、2017年¹⁶に各1件、2018年に3件¹⁷⁻¹⁹、2019

年が1件²⁰であった。研究デザインは、文献ID1～6の6件¹⁴⁻¹⁹が分析的観察研究(横断研究)であり、文献ID7の1件²⁰が介入研究であった。

分析対象文献から抽出された関連概念の総数は、16件であった。関連概念は、件数の多い順に「性別(4件)」、「年齢(学年を含む)(3件)」、「対人ストレス認知(2件)」、「抑うつ傾向(1件)」、「意欲の減退・身体的不全(1件)」、「身体的攻撃(1件)」、「レジリエンス(1件)」、「教師に対する信頼感(1件)」、「教師の集合的有能感(1件)」、「ピアサポートプログラム(1件)」であった。

教師サポート期待と「負の関連」を示した概念は「性別(3件)」、「年齢(学年を含む)(3件)」、「ストレス認知(2件)」、「抑うつ傾向(1件)」、「意欲の減退・身体的不全(1件)」、「身体的攻撃(1件)」であった。教師サポート期待と「正の関連」を示した概念は「性別(1件)」、「レジリエンス(1件)」、「教師に対する信頼感(1件)」、「教師の集合的有能感(1件)」、「ピアサポートプログラム(1件)」であった。

表3 分析対象文献の概要と関連概念

【分析的観察研究(横断的研究)】

ID	発行年	著者	タイトル	対象	教師サポート期待と関連する概念					
					関連概念	関連の正負	関連概念	関連の正負	関連概念	関連の正負
1	2018	井村 亘 など	高校生の精神的健康に 対する教師サポートとレ ジリエンスの関連	1~3年生 3,197人	性別 (1=男性 2=女性)	負の関連	レジリエンス	正の関連		
2	2018	渡邊 真紀 など	高校生の精神的健康に 対する教師サポートと 対人ストレスおよび怒り への対処行動の関連	1~3年生 928人	性別 (1=男性 2=女性)	負の関連	年齢	負の関連	対人ストレス認知	負の関連
3	2018	南 一也	高校生の学校適応感と 抑うつ傾向との関連— 教育現場における抑う つ傾向のリスクスクリー ニングの可能性—	1~3年生 189人	学年	負の関連	抑うつ	負の関連		
4	2017	井村 亘 など	高校生の自傷行為に対 する教師サポートと対 人ストレスの関連	1~3年生 927人	性別 (1=男性 2=女性)	負の関連	年齢	負の関連	対人ストレス認知	負の関連
5	2011	森田 裕子	高校生の教師に対する 信頼感と教師からの ソーシャルサポートに関 する研究：教師と生徒 の捉え方の違いについ て	1, 2年生 760人	性別 (1=男性 2=女性)	正の関連	教師に対する 信頼感	正の関連	教師の 集約的有能感	正の関連
6	2003	田中 陽子 など	高校生の無気力感と攻 撃性の関連性—「学級 雰囲気」「教師サポー ト」「両親サポート」「友 人関係」が与える影響 について	2年生 275人	意欲減退・身体的 不全	負の関連	身体的攻撃	負の関連		

*関連の正負：関連概念と教師サポート期待の関連の正負

【介入研究】

ID	発行年	著者	タイトル	対象	介入方法	教師サポート期待と関連する概念	
						関連概念	関連の正負
7	2019	近藤 充代	男子高校生が取り組む ピア・サポート・プログラ ムが対人関係能力、自 尊感情、精神的健康、 度、学校環境適応感に 及ぼす影響	男子高校 1~3年生 介入群：34人 対照群：34人	<u>ピアサポートプログラム</u> 50分×10セッション 内容：基礎コース(自己理解、人間関係スキ ル、傾聴スキルなど) レベルアップコース (協同、問題解決、対立解消、守秘義務な ど)の2コースを受講	ピアサポート プログラム	正の関連

*関連の正負：関連概念と教師サポート期待の関連の正負

4. 考察

4.1 高校生の教師サポート期待の研究動向

教師サポート期待の研究の原型を為すソーシャルサポートの研究は、1970年代後半から精神医学領域を中心に行われ始め^{21,22)}、その後多様な学問領域に注目されつつ進められてきた。本研究において抽出した文献の発行年は2003年が最も古く、日本の高校

生の関連概念の検討は、ソーシャルサポートの研究が開始された30年程度を経過した後に行われ始めていた。また、1989年に Belle により思春期や青年期の者に対するソーシャルサポートの必要性が示されて²³⁾ 久しいなか、本研究によって抽出された文献数は計7件であり、日本の高校生の教師サポート期待に対する十分な検討がされていないことが示唆され

た。今後、高校生の心理社会的な問題の改善に寄与できる可能性のある教師サポート期待の向上に向けた研究成果の蓄積が必要であろう。

本研究によって採択された文献の研究デザインは、7件中、6件が分析的観察研究(横断研究)であり、1件が介入研究であった。結果の信頼性が高いと考えられている介入研究は、観察研究の結果をもとに実施することが必要であると考えられている^{24,25)}。

本研究によって採択された文献は、観察研究が6件存在するものの、十分な量であるとは言い難い。そのような状況の中、介入研究が1件と僅少である現状は理解ができる。今後は、分析的観察研究を増やしつつ、介入研究に繋げていくことが必要であろう。

4.2 高校生の教師サポート期待と関連する概念

本研究結果より、現在までに明らかとなっている日本の高校生の教師サポート期待と関連する概念は10種類であることが明らかとなった。

その概念の中で「対人ストレス認知」、「身体的攻撃」、「抑うつ傾向」、「意欲減退・身体的不全」は、教師サポート期待と負の関連が示され、「レジリエンス」、「教師に対する信頼感」、「教師の集合的有能感」、「ピアサポートプログラム」は、教師サポート期待と正の関連が示されていた。現在、ストレス研究において援用されることの多い理論にストレス認知理論²⁶⁾がある。ストレス認知理論では、人間はストレッサーに対しての判断(認知的評定)を経た結果、対処行動やストレス反応が生じると考えられている²⁶⁾。また、認知的評定に影響を与える先行条件として個人内要因と環境要因を挙げている²⁶⁾。本研究で抽出された概念である「対人ストレス認知」は、認知的評定に含まれる概念として位置づけることができ、「身体的攻撃」は、対処行動に含まれる概念として位置づけることができ、「抑うつ傾向」、「意欲減退・身体的不全」は、ストレス反応に含まれる概念として位置づけることができる。また、「レジリエンス」、「教師に対する信頼感」、「教師の集合的有能感」、「ピアサポートプログラム」は、先行条件として位置づけることができる。すなわち、本研究で抽出された概念の多くは、ストレスに関連する概

念であることが読み取れる。ソーシャルサポートは、元来ストレスに抗する概念として誕生している²¹⁾ことを鑑みれば、本研究にて抽出された概念の多くがストレスに関連する概念に包含されることは理解ができる。また、本研究結果は、教師サポート期待は、高校生のストレス反応およびストレス反応に至るまでの心理的過程に対して保護的要因として作用する可能性があることを示している。

現在、ソーシャルサポート研究において、ストレスに関連する理論以外に社会的関係性に着目した理論が用いられている⁹⁾。社会的関係性に着目した理論においては、サポート提供者と受容者の関係性の質がサポート期待などに影響を与えると仮定している⁹⁾。実際に、サポート提供者とサポート受容者の関係性を表す日常的な会話や共有活動の質とサポート期待が関連することが明らかとなっている^{27,29)}。

今後は、ストレスに関連する理論のみではなく、社会的関係性に着目した理論などを用いて、日本の高校生の教師サポート期待について検討することにより、高校生の心理社会的な問題の解決に向けて教師が配慮すべき事項が明確になると考える。

また、本研究により基本属性に含まれる概念である「性別」、「年齢(学年)」が関連概念として抽出された。一般的に女性は男性と比べてサポート期待値が高いと考えられている³⁰⁾ことや、中学生において年次の進行に伴い全般的なサポート期待が低下する³¹⁾ことが明らかとなっているなかで、高校生の教師サポート期待に関しても基本属性との関連が検討されていることは理解ができる。また、「性別」と教師サポート期待との関連に関しては、本研究で採択された文献によって関連の正負の結果が一致しておらず、今後、更になる検討が必要であると考えられる。

4.3 本研究の課題

本研究で使用した検索エンジンは、CiNii Articles、Web版医学中央雑誌であり限定的である。今後は、その他の検索エンジンを加味することにより、更に幅広く高校生の関連概念を検討することができるであろう。

倫理的配慮

本研究は、すでに一般に公開されている文献を対象とする研究であり、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」における倫理的配慮に関する諸手続きを必要としない。内容抽出の際には著者の文脈・論旨を損なわないように意味内容を損なわないよう研究者間で十分協議しながら、分析を行い、著作権に配慮し引用文献の出典を正確に記載した。なお、利益相反はない。

文 献

- 1) Arnett JJ : Adolescent storm and stress, reconsidered. *American Psychologist*, 54, 317-326, 1999.

- 2) 小塩真司, 岡田涼, 茂垣まどか, 並川努, 脇田貴文: 自尊感情平均値に及ぼす年齢と調査年の影響—Rosenbergの自尊感情尺度日本語版のメタ分析—. *教育心理学研究*, 62, 273-282, 2014.
- 3) Kandel DB and Davies M: Epidemiology of depressive mood in adolescents: An empirical study. *Archives of General Psychiatry*, 39, 1205-1211, 1982.
- 4) 文部科学省: 令和元年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について. https://www.mext.go.jp/content/20201015-mext_jidou02-100002753_01.pdf, [2019]. (2022.1.14 確認)
- 5) 上地安昭: 教師カウンセラー—教育に活かすカウンセリングの理論と実践—. 金子書房, 東京, 2005.
- 6) 尾見康博: 子どもたちのソーシャル・サポート・ネットワークに関する横断的研究. *教育心理学研究*, 47, 40-48, 1999.
- 7) 坂晴己子, 真中陽子: 高校生の学校ストレスとソーシャル・サポートおよびコーピングとの関連. 明治学院大学大学院文学研究科心理学専攻紀要, 7, 9-18, 2002.
- 8) 稲葉昭英: ソーシャル・サポートの研究の展開と問題. *家族研究年報*, 17, 67-78, 1992.
- 9) シェルドン コーエン, ベンジャミン H ゴットリーブ, リン G アンダーウッド: 社会的関係と健康. シェルドン コーエン, リン G アンダーウッド, ベンジャミン H ゴットリーブ編, ソーシャルサポートの測定と介入, 川島書店, 東京, 3-34, 2005.
- 10) Cohen S and Wills TA: Stress, social support, and the buffering hypothesis. *Psychological Bulletin*, 98, 310-357, 1985.
- 11) Chu PS, Saucier DA and Hafner E: Meta-analysis of the relationships between social support and well-being in children and adolescents. *Journal of Social and Clinical Psychology*, 29, 624-645, 2010.
- 12) Rueger SY, Malecki CK, Pyun Y and Aycock C: A meta-analytic review of the association between perceived social support and depression in childhood and adolescence. *Psychological Bulletin*, 142, 1017-1067, 2016.
- 13) Kim HS, Sherman DK and Taylor SE: Culture and social support. *American Psychologist*, 63, 518-526, 2008.
- 14) 田中陽子, 栗山和広, 園田順一: 高校生の無気力感と攻撃性の関連性—「学級雰囲気」「教師サポート」「両親サポート」「友人関係」が与える影響について—. 九州保健福祉大学研究紀要, 4, 77-82, 2003.
- 15) 森田裕子: 高校生の教師に対する信頼感と教師からのソーシャルサポートに関する研究—教師と生徒の捉え方の違いについて—. *学校心理学研究*, 11, 15-28, 2011.
- 16) 井村 亘, 渡邊真紀, 石田実知子: 高校生の自傷行為に対する教師サポートと対人ストレスの関連. *学校保健研究*, 59, 347-353, 2017.
- 17) 南一也: 高校生の学校適応感と抑うつ傾向との関連—教育現場における抑うつ傾向のリスクスクリーニングの可能性—. *子どもの心とからだ*, 27, 17-23, 2018.
- 18) 渡邊真紀, 石田実知子, 井村 亘, 小池康弘: 高校生の精神的健康に対する教師サポートと対人ストレスおよび怒りへの対処行動の関連. *川崎医療福祉学会誌*, 27, 441-447, 2018.
- 19) 井村 亘, 石田実知子, 渡邊真紀: 高校生の精神的健康に対する教師サポートとレジリエンスの関連. *学校保健研究*, 60, 114-119, 2018.
- 20) 近藤充代: 男子高校生が取り組むピア・サポート・プログラムが対人関係能力, 自尊感情, 精神的健康度, 学校環境適応感に及ぼす影響. *養護実践学研究*, 2, 25-35, 2019.
- 21) Gerald C: *Support systems and community mental health*. Behavioral Publications, New York, 1974.
- 22) Cobb S: Social support as a moderator of life stress. *Psychosomatic Medicine*, 38, 300-314, 1976.
- 23) Belle D: *Children's social networks and social support*. John Wiley & Sons, New York, 1989.
- 24) 近藤克則: 研究の育て方—ゴールとプロセスの「見える化」—. 医学書院, 東京, 2018.
- 25) 友利幸之介, 京極真, 竹林崇: 作業で創るエビデンス. 医学書院, 東京, 2019.
- 26) Lazarus RS and Folkman S: *Stress appraisal and coping*. Springer Publishing Company, New York, 1984.
- 27) Gross J, Lakey B, Lucas JL, LaCross R, Plotkowski AR and Winegard B: Forecasting the student-professor matches that result in unusually effective teaching. *The British Journal of Educational Psychology*, 85, 19-32, 2014.
- 28) Woods WC, Lakey B and Sain T: The role of ordinary conversation and shared activity in the main effect between perceived support and affect. *European Journal of Social Psychology*, 46, 356-368, 2015.
- 29) Lakey B, Molen RJV, Fles E and Andrews J: Ordinary social interaction and the main effect between perceived support and affect. *Journal of Personality*, 84, 671-684, 2015.

- 30) Vaux A : Variations in Social support associated with gender, ethnicity, and age. *Journal of Social Issues*, 41, 89-110, 1985.
- 31) 岡安孝弘, 嶋田洋徳, 坂野雄二: 中学生におけるソーシャル・サポートの学校ストレス軽減効果. *教育心理学研究*, 41, 302-312, 1993.

(2022年5月19日受理)

A Literature Review of Japanese High School Students' Teacher Support Expectations and Related Concepts

Wataru IMURA and Tomoko NAMBA

(Accepted May 19, 2022)

Key words : high school students, teacher support expectation, literature review

Abstract

This study was conducted with the aim of comprehensively identifying and organizing the concepts related to the support expectations of Japanese high school students toward their teachers. The literature search engines used were CiNii Articles and Ichu-Shi Web. Concepts related to high school students' support expectations of their teachers were extracted from the accepted literature. As a result, a total of seven references were selected and 16 concepts related to teacher support expectations were extracted. Based on the results of this study, we believe that further research on support expectations for teachers will clarify the issues that teachers should consider in solving psychosocial problems of high school students.

Correspondence to : Wataru IMURA

Department of Occupational Therapy

Tamano Institute of Health and Human Services

1-1-20 Chikkou, Tamano, 706-0002, Japan

E-mail : 10.26imu@gmail.com

(Kawasaki Medical Welfare Journal Vol.32, No.1, 2022 171 – 177)